

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1092400017 | | |
| 法人名 | 株式会社ケア・サポート | | |
| 事業所名 | グループホーム オレンジ | | |
| 所在地 | 群馬県甘楽郡南牧村大字小沢1050番地4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| 同じ1日であるなら1日を楽しく笑顔で過ごせるように、利用者との適度な距離感を保ちながらコミュニケーションを図り、食事への意欲・入浴などへつなげている。コロナ禍で外出や外食が困難なため、車椅子利用の利用者も、全員が庭に出て外気にあたる機会を作ったり、入浴ができるように職員2人で対応したり、利用者の慣れ親しんだ作業である畑仕事や編み物が快適にできるように、場や時間の提供をしたりしている。また、新入職員には、なにがわかってわからないのか確認したり、職員には大変なことはなにかを具体的に考えてもらったり、職員の負担がないように利用者の安全を第一に支援方法を検討したりして、職員が責任を持って動けるように指導しつつ、働きやすい職場づくりに努力している。 |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者、職員は理念を共有して実践につなげている。 | 理念に基づき同じ1日であるからこそ笑顔で過ごせるようにしたいと、自立の視点にもとづき利用者の生活を支援している。新入職員には、自分で目でみて動けるようになるまでつきっきりで、なにがわかったのか、わからないのか確認しながら、指導をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議を通じて地域の方と交流を図っている。 | どんど焼きや道路清掃などに職員が参加していたが、現在コロナ禍で地域活動が行われていない。現在は、回覧板で地域の様子を知ったり、事業所前を通る方と挨拶を交わしたりしている。今後、災害対策を視野に入れて、交流を再開したいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じて認知症の方への理解、支援を話している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の場で、話し合いを行い、そこで出た意見をサービス向上に活かしている。 | 参加できる利用者・民生委員が参加して、運営推進会議が行われている。事業所での行事や利用者の状況などを報告して、栄養管理や転倒などについて質問があり、できるだけ詳細を伝えて理解していただくとともに、参考にしていただけるように考えている。 | 参加できない家族などにも会議の内容を伝えられるような工夫を期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者や課長と連絡を密に取っていて、協力関係を築いている。 | 村の担当課とは、ワクチン接種の状況報告など必要な報告の他、町からマスク支給の情報提供などがある。過去には、無断外出する利用者の相談をするなど、協力関係を築く努力をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内外共に身体拘束はしていない。 | 身体拘束をしないケアに努めており、無断外出する利用者には見守りを徹底し、他の利用者にも何かあったら声をかけてもらえるように依頼したり、弄便(下着やおむつに排泄した便をいじったりする)をする利用者には、ずぼんのゴムを少しきつめにして手を入れられないようにしたりしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内はもちろん、利用者が自宅に帰宅した場合に虐待が無いよう防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者、職員共に個々の必要性などを活用出来るよう支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や退所時には十分な説明を行い、理解や納得をしてもらった上で、文書にて保存している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族の意見が外部に出せるよう苦情窓口を設置し、苦情があった場合には運営に反映させている。 | 週1回面会に来る家族もいるなかで、遠方においてコロナ禍で面会が困難な家族もあり、主に電話で情報提供を行い、事業所への意見を聞くようにしている。事業所へお任せするという家族が多いため、今後できるだけ家族とともに考えていく姿勢を伝えたいと考えている。 | 家族の意見聴取を図るためにも、事業所での様子を伝える手段を検討するなど、事業所の取り組みを伝える工夫を期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回、職員会議を開いており、管理者と代表者は参加して、聴く機会を設けている。 | 月1回の職員会議の他、業務のなかで意見を聞いている。運営に関する意見には至っていないが、職員が大変だという時には、なにが大変なのか具体的に言語化するようにして解決につなげたり、入浴など一人で対応するのではなく安全を第一に支援するようしたりして、職員意見をよく聞いている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者を含めた全職員の勤務状況を把握しており、向上心を持って働けるよう諸整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、研修を受けるよう推奨している。今現在は新型コロナの為、施設内での講習は実施できていないが、前は年に数回、他の施設の方に講義を実施してもらっていた。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナの為に交流を控えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所当時から本人の状況や状態を把握して、話を聞きながら関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者ばかりではなく、家族にもよく話を聞いて要望等を取り入れ、関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所時に本人と家族への支援を把握し、いろいろなサービスの利用が出来るよう対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者と共に生活するような対応を取っており、共同生活者として支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族の今までの生活状況を踏まえた上で関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が望む関係を途切れないよう支援をしている。 | 面会や外出制限があり、馴染みの人や場とのつながりを継続することができないが、利用者がつながりがあることが多く、利用者同士で同じ会社に勤務していたなどのつながり把握して会話をつないだり、畑作業など慣れ親しんだ作業を事業所の畑でできるようにしたりしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が共同生活しやすいよう介護者は間に入り、支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用が終了しても相談があった場合など支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合には家族と相談もしている。 | 利用者にあらためて聞くとかまえてしまうこともあるため、利用者同士の会話で、利用者の気持ちを把握することもある。利用者が手をたたく・テーブルをたたくなど、どのような動作でもなにか意味があると考えて、見逃さないようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に本人の生活歴等を家族などに聞き、サービスに取り入れられるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの状態を把握できるよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人が快適に生活できるよう話し合いをした上で、介護計画を作成している。 | 食事や排泄など各ケアの提供状況などを「ケアチェック表」にして、それをもとに課題を抽出して介護計画につなげている。今後、介護計画・ケアチェック表が日々のケアにつながるような意識づけを図りたいと考えている。 | 利用者・家族の意向を記載して、それをもとに、援助方法の検討を図ることや、ケアチェック表と介護計画の流れがわかるよう作成日を記載するなど、一連の流れがわかるような工夫を期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の状態を個人日誌に記録し、職員会議の場で情報交換をしたり、介護計画に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状況を踏まえた上で、家族とも相談し、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人の能力を発揮しながら安全で楽しい生活が出来るよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に本人や家族から希望の病院を聞いており、適切な医療を受けられるよう支援している。 | これまでのかかりつけ医を継続して受診しており、通院は職員が対応して、結果は電話で行っている。救急搬送の場合には、家族と連絡をとって病院で引き渡しをしたり、日頃は看護師の職員が週1回健康管理を行ったりして、健康管理を努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が勤務として来た場合に利用者の状態や変化を報告、相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した場合には病院の相談員と初期の段階で連絡を取っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用者の状態が変化した時点で家族との話し合いをしており、方針を決めている。 | 入居時に、医療的処置の必要がなければ看取りを行うことを説明しており、看取りをした実績もある。重度化し医療的処置が必要となれば、入院としている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命の講習を受講している職員がおり、看護師と共に対応等の話し合いが出来る。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は夜勤者を含め交代で参加しており、時には近隣住民の方にも参加してもらい、協力を仰いでいる。 | 年に2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。過去には、避難訓練に近隣の方に参加していただいたことがある。近隣にある会社とは面識もあり、協力をいただける関係がある。 | 日頃から地域との関係づくりを行うなかで、災害時に避難できるような具体的な働きかけや取り組みを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしている。 | 居室に入室する時や洗濯物をタンスにしまうためタンスを開ける時など、利用者に声をかけて了解を得てから行っている。その他、排泄などで失敗があった時などは、さりげなくトイレに誘導したり、利用者間の人間関係でこじれた時は、利用者同士を離して話題を転換したりして、誇りを失わないように支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々、一人ひとりに声掛けをして本人の思いが表せるよう働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 全てが利用者の希望道理にはいかないが、なるべく希望が叶うよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類や化粧など希望があれば家族に話をして持ってきてもらえるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の能力に応じて食事の下ごしらえなど手伝ってもらっている。 | 栄養士が献立をたて、職員が手作りであたたかいものを提供している。季節のふきなどの野菜の差し入れを使ったり、利用者とおやきをまるめたりして、食事をたのしめるようにしている。誕生日には、利用者が好きな生寿司やお稲荷を選んでもらったり、どら焼きを提供したりしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士が献立を立てており、チェック表により水分量や食事量を把握しているので一人ひとりに合った支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔の清潔を保てるよう能力に応じて支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 本人の排泄状況やパターンを把握し、能力を生かして排泄が出来るよう支援している。 | 食事やおやつ後などの定時誘導の他、それぞれするなどいつもと違う行動をした時には声をかけて、失敗しないように支援している。排泄パターンがつかめるよう排泄チェック表を記録しているが、困難な事例もあり、状況にあわせて頻回に確認を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 高齢者が便秘症になりやすい事を理解しているので献立に工夫をしている。朝には体操などをしていて予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴の曜日や時間帯は決めてしまっているが、入浴順などなるべく本人の希望にそえるようにしている。 | 入浴は週2回、車椅子利用の利用者も職員が2人に対応して、入浴できるようにしている。嫌がる利用者には風呂場まで誘導して入浴につなげ、最低週1回は入れるようにしている。歌を歌ったり、おしゃべりをしたり、たのしめるように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりが安眠できるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりが使用している薬剤は理解しており、能力に応じた支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の中で楽しめる事があるよう本人の能力に応じた支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望を聞きながら希望に添えるよう支援を行っている。 | コロナ禍で外出や外食が困難であり、広い庭を活用して車椅子利用の利用者も全員が庭にでて日光浴をしたり、事業所の畑でじゃがいもを育てたりして、外気にあたる機会を作っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の状態により金銭を持ってもらい、外出の際に利用者により買い物をしてもらい、支払いをしてもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話がしたいとの申し出があった場合には、電話をし、手紙を出したい場合には代筆や、投函などの支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は利用者に配慮したものになっており、心地よく過ごせる工夫をしている。 | 共用空間には、手作りの日めくりカレンダーがあり、利用者に日付を変えてもらっている。窓からの景色や花を飾ったりして、季節を感じてもらえるようにしている。利用者の人間関係に配慮し職員が介入して雰囲気を変えるなど、居心地よく過ごせるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間の中でも一人で過ごせたり、他の利用者と共に過ごせる場所の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際にはご本人が利用していた物を持ち込んで貰い、快適に過ごせるよう配慮している。 | 居室にはベッドとキャビネットが備え付けられており、布団が持ち込まれている。入り口には利用者の名前を記載して、案内するときにお伝えしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの能力が活かせるように配慮したサービスを行っている。 | | |